

輝く 田底っ子

第28号

文責：校長 益永 一幸

田底小 スローガン

- ① 自分と周りの人を大切にしよう ② 自ら進んで学び、互いに高め合おう

30日（金） 通知表渡し



熊本市では、通知表は令和2年度から2回渡しに変更しています。メリットはお子様の成長の様子を長い期間で捉え評価できること。長期休業中の学習の取組も通知表に反映できること。教員の成績処理や事務整理にかかる時間を軽減することにより教師と子どもが向き合える時間が一層確保できること。などがあります。

評価は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質能力で評価します。テストの点数だけでは判断できないことを教師がしっかり見取り、その子に合った評価をしています。また、担任のお子様に対する思いは所見欄に書かれています。どうぞ、今後の学校と家庭の連携の教育に生かすことができますよう、ご理解・ご協力をお願いします。



大橋城跡



あっ田底に！ステキな歴史 NO. 2

大橋城、摩仁王丸

今から約800年前（鎌倉時代）の山城は、竹山や大きな木が茂った小高い丘で、山全体を城とし、川を堀とした大橋城があった。城主は大橋左衛門尉貞経と言い、御家人という位にっていた。貞経は源頼朝に味方をしていたが、何者かが「貞経はむほんの計画をしている」と頼朝に告げ口をしたことにより、頼朝は大変怒って、大橋城は攻め落とされ貞経は鎌倉の牢屋に入れられた。貞経の妻白菊は、大橋城落城の時こっそり城から抜け出し、薩摩の国に落ち行き、ほどなくして男の子「摩仁王丸」を生んだ。

摩仁王丸は才智にすぐれ、7歳の時、法華経を暗唱するまでになった。摩仁王丸は12歳になった時、まだ見たこともない父親貞経に会いたさの一念から遠い鎌倉に旅立った。やっと鎌倉の鶴岡八幡宮の社殿にこもり法華経を読経して父の行方を祈った。ちょうどその時、頼朝の妻政子がお詣りにこられて、その読経のすばらしさを聞きに驚かれ、頼朝にこのことをお伝えになった。頼朝は摩仁王丸を呼び法華経のことを色々質問されたが、その場で間違いなくこたえたので非常に驚かれ、望みごとがあるならかなえてやろうと言われた。そこで、摩仁王丸はうれし涙を流しながら、父のことを話し一度合わせてくださいとお願いを出した。頼朝は約束を変えず、貞経を牢屋から出し、肥後の国の半分の所領を与えた。摩仁王丸は父と一緒に肥後の国に帰り、大橋城に入り、母と親子3人で楽しい月日を送ることになった。

摩仁王丸は後に、大橋左衛門尉通貞と号して、大橋城主となり、名君として仰がれるようになった。現在、山城区に、「七郎丸城跡」「八郎丸城跡」「高城跡」というところもあり、平や外城、高城という性も残っている。